
僕の中の神父が死ぬ事について

大内

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の中の神父が死ぬ事について

【Nコード】

N0738C

【作者名】

大内

【あらすじ】

僕の中の神父がある時突然死んだ…そのとき僕は

青白い月の光が暗い部屋の中に入り込んできた。その時になって僕の中の神父がおぞましい鈍器のようなモノで誰かに撲殺されているのに気がついた。

それは神父と言えるようなものでも無いほどに暴力的にそして確実に殺されていた。

まるで神父がそこに生きていた事実を頭から否定するかのよう……確かに神父は僕の中で生きていた。

昨日もウィスキーを飲みながら1人娘の話を（僕はその話いつたい何度聞いただろうか）楽しそうに話していた。

僕は神父をそれまでも何度か殺されている。（あるいはそれは僕が殺してきたのかも知れない）しかし彼はもう誰にも殺される事はないだろうと思っていた。

僕もそのために最善の注意を払ってきたつもりだった。

しかし神父はまたしても理不尽にそして完膚無きまでに殺された。

そこには再生の余地はない。

それは僕にもわかる。

少し前まで神父の形をとっていたその肉の塊を見ていると僕は酷く悲しくなってきた。

誰だつて神父を殺されたくなんかないのだ。

空になつていたウィスキーのグラスに少しずつ孤独と不安と恐怖が満たされていく。

それらは月の光に照らされて綺麗な光沢を放っていた。

暗い部屋の中で彼らは奇妙に混じり合い不気味な虹を作った。

それを見ているとなんだか悲しみが癒されいくような気がした。

不気味な虹は僕の周りを執拗に取り巻いて最後には僕を完全に支配した。それから僕の中に神父が住むことはなくなってしまうた。

彼らが住んでいた教会さえ僕の中にはもうないのだ。

(後書き)

悲しみが損なわれる事が何より悲しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0738c/>

僕の中の神父が死ぬ事について

2010年12月28日22時58分発行